

入院患者の転倒・転落発生率

【具体的な計画】

2010年から、転倒転落防止アルゴリズムを用いた患者の転倒リスク評価、及びそのリスクに応じた対策を講じている。

2020年より、三島医療圏を巻き込んだ不眠対策にも取り組んでいる。

【処置・改善】

2024年より、転倒・転落・身体抑制ワーキンググループを立上げて、患者が安全な入院生活が過ごせるよう、転倒転落防止のための対策及び身体拘束の低減を目指している。

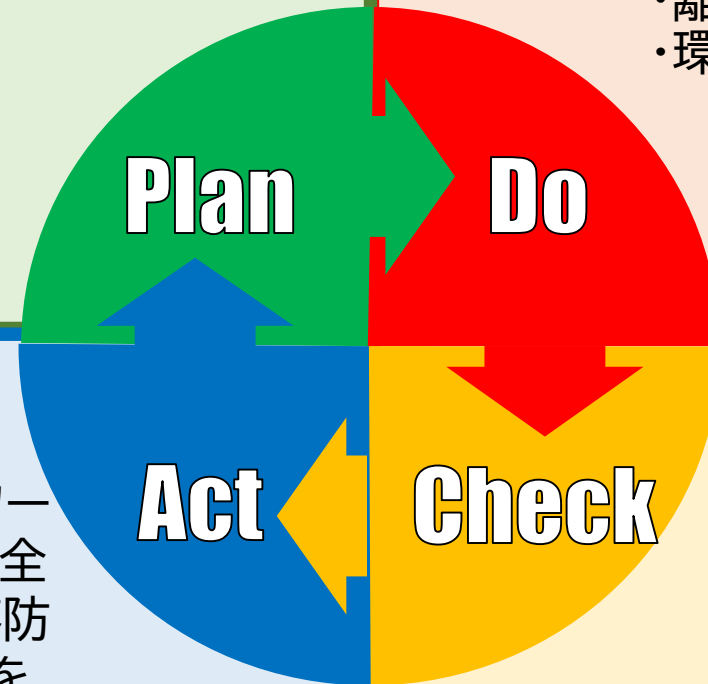
【実行内容】

- ・転倒転落発生後ラウンド
- ・離床センサー導入
- ・環境アセスメント・対策検討

【評価】

入院患者の転倒・転落発生率は月によってばらつきがある。

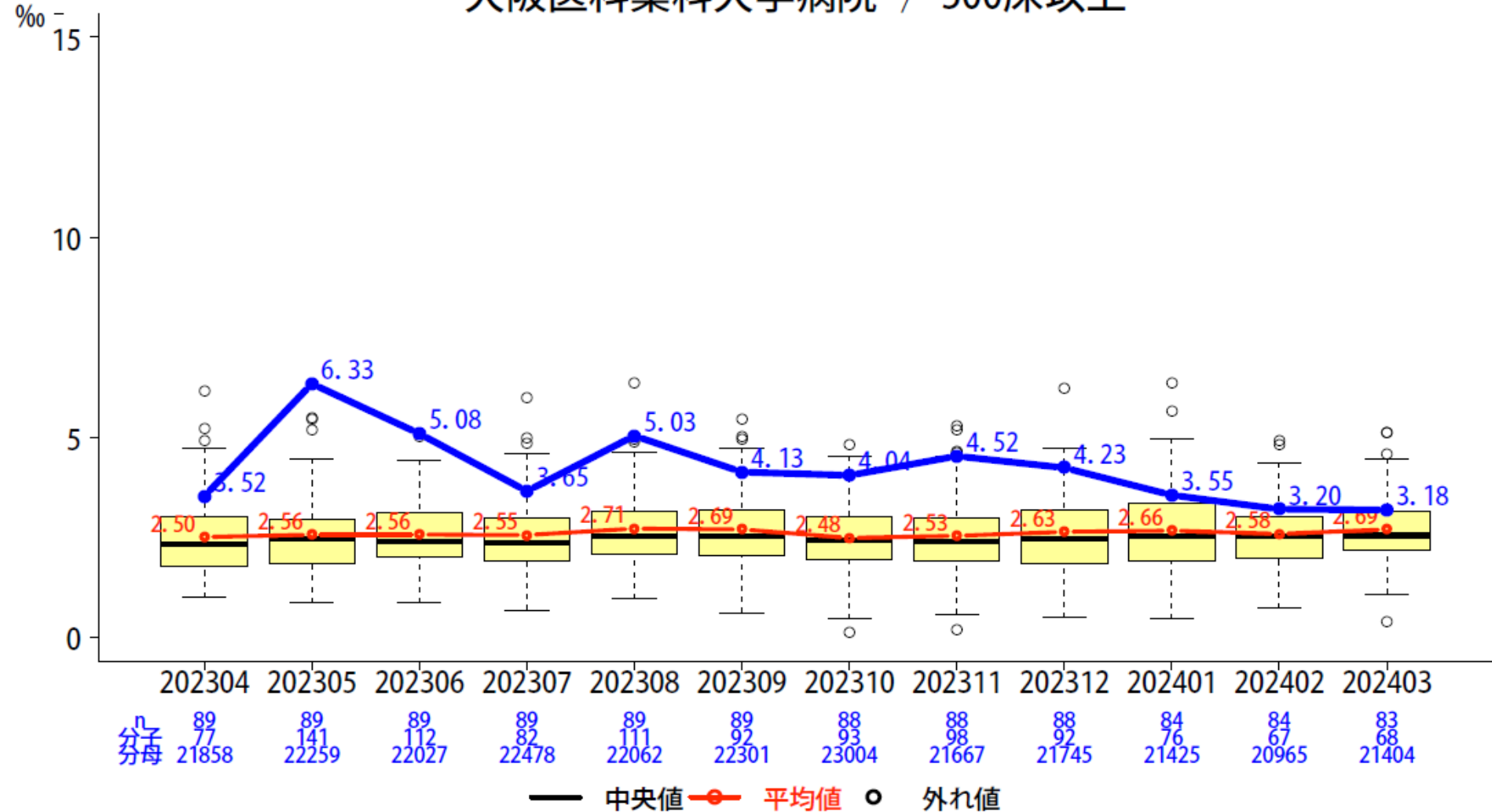
損傷レベル2以上の発生率は日本病院会QIプロジェクトの平均を上回っているが、レベル4以上は平均値より低い値で推移している。



一般-3-a 入院患者の転倒・転落発生率

分子:医療安全管理室へインシデント・アクシデントレポートが提出された転倒・転落件数
 分母:入院延べ患者数

大阪医科薬科大学病院 / 500床以上

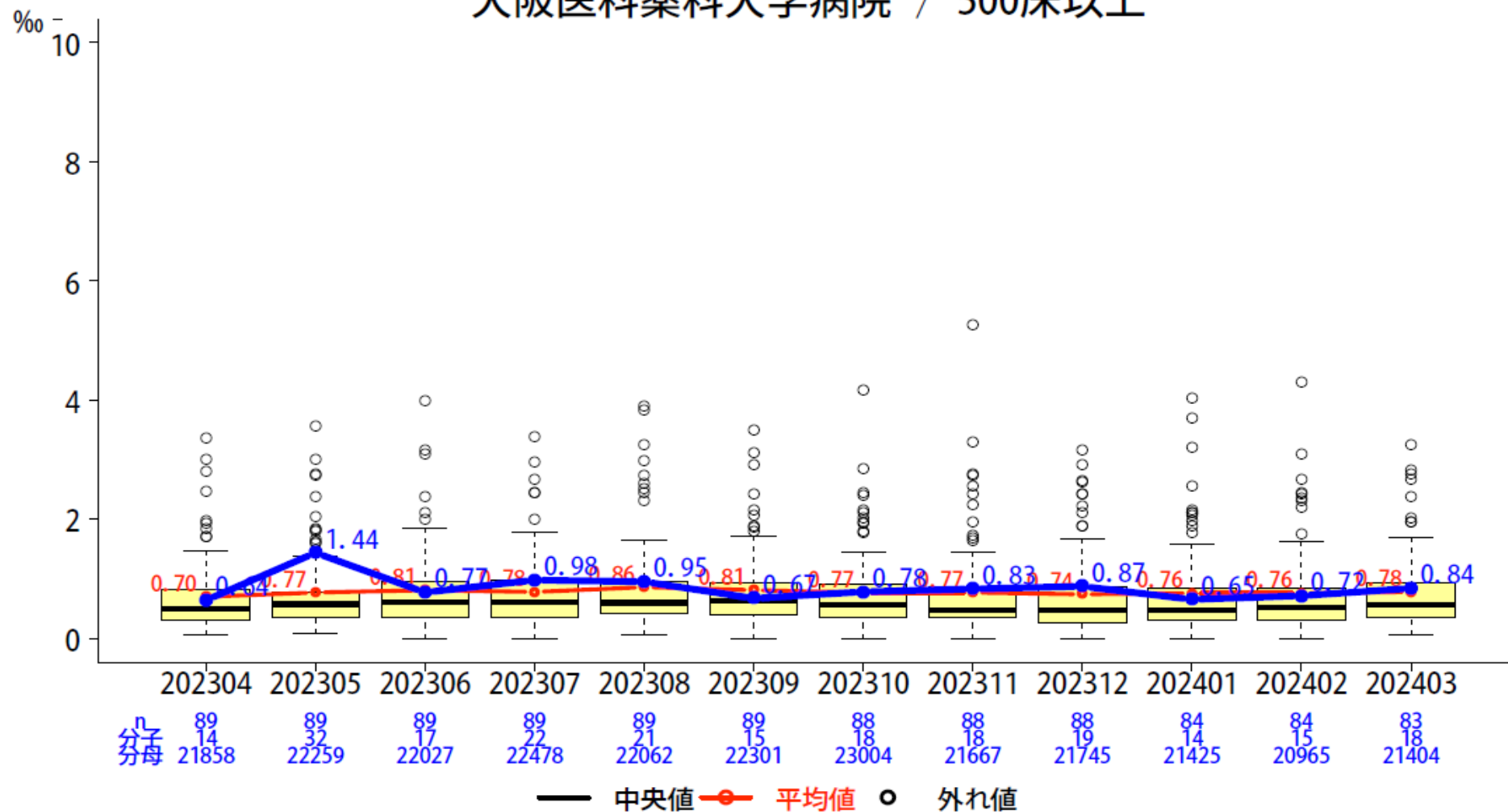


※日本病院会QIプロジェクトフィードバックデータ

一般-3-b 入院患者の転倒・転落による損傷発生率（損傷レベル2以上）

分子:医療安全管理室へインシデント・アクシデントレポートが提出された転倒・転落件数のうち損傷レベル2以上の件数
分母:入院延べ患者数

大阪医科薬科大学病院 / 500床以上

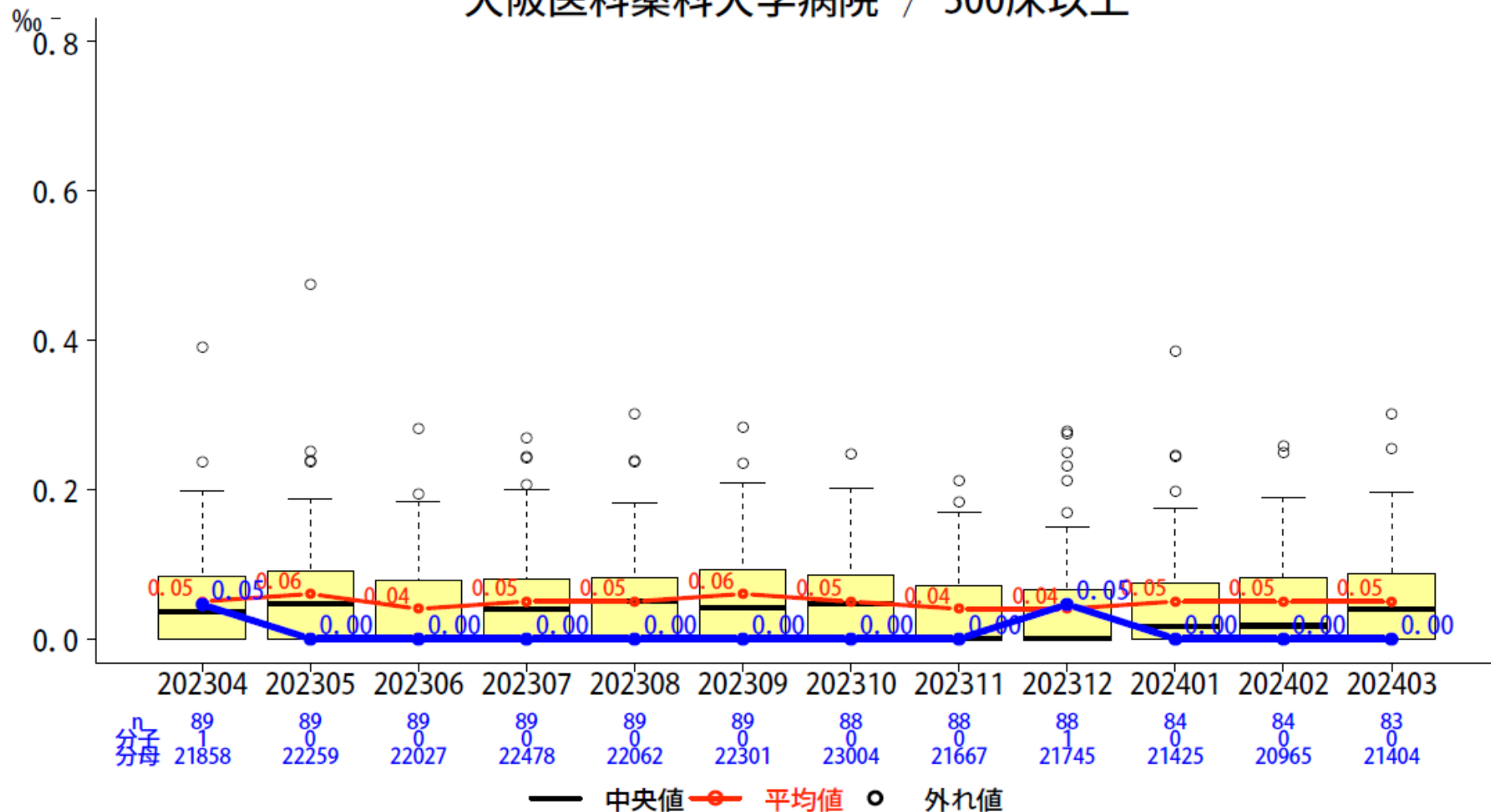


※日本病院会QIプロジェクトフィードバックデータ

一般-3-c 入院患者の転倒・転落による損傷発生率（損傷レベル4以上）

分子:医療安全管理室へインシデント・アクシデントレポートが提出された転倒・転落件数のうち損傷レベル4以上の件数
 分母:入院延べ患者数

大阪医科薬科大学病院 / 500床以上



※日本病院会QIプロジェクトフィードバックデータ